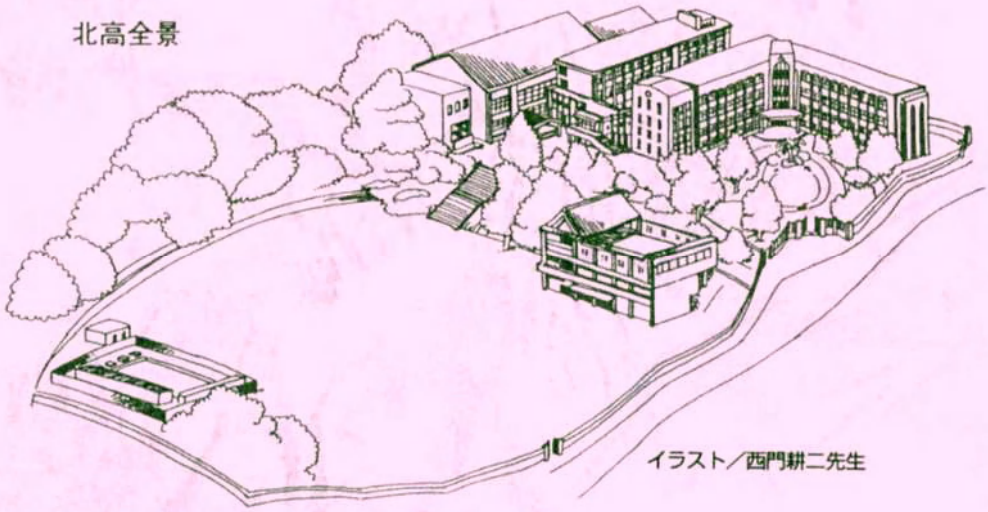
いつンまにか——20年

東京北星会20周年記念誌

1998



校歌

作詞／校歌選定委員会　作曲／平井　康三郎

一、紫匂ふ　烏帽子岳
明けゆく朝　空澄みて
潮の音遠く　ひびきては
八幡台に雲ぞわく
青嵐に立つ北高校

二、自由の鐘の鳴るところ
久遠の生命　育みて
喜び満てる　学舎に
ああ、夢多き　若人よ
いざ高らかに　歌わなん

三、三歳の秋を　ひたすらに
真理の扉開きつつ
樹つる我等の　学の道
理想に強く　生きんかな
我が北高に光あれ

「東京」という歌があった。
地方の若者の東京に対する憧れを歌った
そのフォークソングがミリオンセラーを記録し、
ほぼ時を同じくして東京北星会が誕生した。
そして二十年、
母校佐北も五十周年を迎えた。
この記念すべき年を、
ささやかな形でも残したい・・・
そんな思いが実を結んだ。
東京北星会としては初めての試みである。
不満足な点は多々あるが、
十年後、二十年後にさらに充実した内容で
編まれることを確信しつつ、
お手元にお届けする。

絵／松尾一枝先生

祝・東京北星会 千周年によせて

東京北星会会長（四回生）
生山 康夫

暖かい春の陽射しを受ける頃になると、そろそろ東京北星会の総会が近づいて来たなと思いながら、北高時代の頃を懐かしく想いだします。

北高を卒業してからは、全く同窓生に会う機会もなく、郷土のことを思いながらも、帰郷せる時間もない多忙な毎日を過ごして来ましたが、東京北星会が設立されてからは、久し振りに懐かしい人達や若い後輩達に会うことも多くなり、在学時代の事や最近の状況等を聞いては青春時代に戻り、当時を思い出しながら語り合うのを楽しみにしています。

東京北星会設立時は、幹事として少しでも協力出来ればと思っていましたが、会長をを引き受けることにより、まず軌道に乗っていない東京北星会運営の安定と基礎固めが必要と痛感し、各回幹事の皆さんと意見を交換し、協力し、幹事不在の卒業回は幹事を出すよう働きかけ、幹事会を円滑に運営するように心掛けてまいりました。

幹事の皆さんは多忙にもかかわらず出席し、会の目的である会員相互の親睦をどのように図っていくかについて、先輩、後輩に関係なく積極的に意見を交換し、幹事会を活性化させ、会の運営を円滑にしてくれました。

更に、幹事を支えている同期生の皆さんの多大なる協力により、他では見られない活気のある総会を開催することが出来たと感謝しております。会員が一同に集まるのは、二年に一回開催している総会だけですが、他にも交流する機会を設けようとゴルフコンペを年に二回春と秋に行い参加者は増え続けています。今年は三十回大会を迎えますので、盛大な記念大会にする予定です。

北高バレー部が春の全国大会に二回出場し、その時には臨時応援団を結成し、カンパをしたりして応援をしたこともあります。二回目の出場では試合毎に勝ち上がりベストエイトにはいり全国に佐世保北高の名を高めた事もあります。

前回までの総会には、幹事の呼び掛けと会員の協力により、約三千人いる会員のうち、四百人前後の会員が毎回参加しています。

東京北星会は今年で二十周年を迎えることが出来、何とか基礎が出来てきたと思います。これを機会に設立から今日までの活動を振り返り、将来さらに発展していく第一歩としたいと思っています。

そのためにも第十回総会は二十周年記念大会として記念行事を開催すべく、平成八年九月から準備を始め、イベントプロジェクトチーム、記念誌プロジェクトチームを発足させました。

各チームとも、再三検討会を開き具体案を作り、幹事会で承認を得るという方法をとりながら、記念総会への参加会員五百人を目標をめざし幹事一同頑張ってまいりました。

記念誌は、多くの会員の方に読んでいただき、これからの東京北星会発展のために、ご意見を頂ければ幸いに存じます。

平成十年は佐世保北高が創立五十周年を迎え、東京北星会は二十周年になるという二重の記念すべき年でもあり、第十回総会は多くの会員の記憶に残る大会となるでしょう。

北星会会長（七回生）
村田 純一

東京北星会会員の皆様の益々のご清栄心からお慶び申し上げます。
又、東京北星会二十周年を心よりお祝い申し上げます。
我が母校北高は本年平成十年に五十周年を迎えました。この半世紀の間に二万五千名余の卒業生を生み、社会のあらゆる分野にめざましい活躍をなされ私たち同窓生に誇りと自信を与えてくれております事を大変嬉しく思っております。
これも東京北星会を始め各支部の皆様のお力添えがあってのことと改めてお礼申し上げます。
今社会が複雑且つ、多様化しテンポの変化に目を見張る昨今、今一度先輩達の足跡を見つめ、又、新聞・テレビを賑わす残虐な殺人の被害者いや、加害者までが中学生であり高校生出であったりする今日、そしてそれにより教育問題がまず問われる時、後輩の良き道標となるべく我々の北星会をもっと発展させ、皆の集いの場としての役割を持たせ、利用して頂きたいと思います。
特に地元と違い、東京北星会におかれましてはその役割は計り知れないものがあると思います。
今後共、益々友好の場として発展され、我が北高の校訓であります「友愛」「積極」「自立」のもと、二十一世紀を担う後輩の良き礎としての地位を確立されることを願っております。
東京北星会二十周年を心よりお祝い申し上げます。
最後に我が北高の五十周年記念事業も皆様のご協力で着々と実行されております。今後とも尚一層のご協力を重ねてお願いいたしまして私の挨拶と致します。

カット／高祖一幸（4回生）

北高等学校前校長
山崎 政之

「東京北星会」結成二十周年と第十回総会の記念すべき年を迎えられ、お祝い申し上げます。
北星会二万五千名余の会員数となった佐世保北高校は、本年度創立五十周年を迎え、北星会を中心に募金活動、記念事業に取り組んでおります。
昭和二十三年度の学制改革により、地元佐世保市において旧制中学校・高等女学校の五校を統合分割することで、佐世保北、佐世保南が創立されました、同じ年度に、長崎市においても長崎東、長崎西の二校が中島川で二分されております。
佐北と佐南の両校は、この五十年間、各分野においてライバル校として競い合うことで、佐世保市の高校として成長し現在に至っております。
創立記念事業のオープン行事として、二月一日に両校卒業生の芸術展を市美術センターで開催し、本年度を記念年として設定しております。創立五十周年の記念式典・祝賀会は、十月十七日（土曜日）に企画しております。
北星会々員の募金状況は、郷土佐世保・母校北高への想い想いの中に、各卒業回毎に集約し、募金額・賛助人数が示されています。
校長として二十二年振りに戻った佐世保北高が最後の勤務となり、北星会々員との三十年振りの出会いに昭和四十年代が想いだされる昨今です。特に卒業生の中に卒業回数を知らないものが多いので、次の方法を活用して下さい。
一、昭和の卒業生は、高校卒業の年から二十三の数をマイナス（例昭和三十一―二十三＝八回生）
二、平成の卒業生は、高校卒業の年に四十の数をプラス（平成三十四十＝四十三回生）
東京北星会においても、今後、若い会員に対して教示してください。
東京北星会と本部事務局との強い連携によって、佐世保北高、北星会の二十一世紀への成長を期待しております。

現在の校長は中山正路先生となっておりますが、原稿締切の関係上、山崎前校長からお祝を頂きました。